



## 第61回

地域おこし協力隊が行く！

# 実は隣のスゴイ人

曾於市内のスゴイ人にスゴイ人を紹介してもらうこのコーナー。前回のスゴイ人、スーフィーさんにご紹介いただいたこの方は、「移住し、家族のような暖かさのある食堂をしているスゴイ人」とのこと。インタビュアーは<sup>はじ</sup>栞志帆でお届けします。

【今回のスゴイ人】

光鶴家

戸島 八千代さん



**今**回は、財部町にて平成16年より「光鶴家」を営む戸島八千代さんにお話を伺ってきました。

山口県で生まれ育った戸島さんは大阪の段ボールを扱う会社で5年ほど働き結婚。主婦になり旦那さんの仕事の関係で兵庫県に移住します。その後、二人の娘が小学生と中学生の時、都城市に転勤。都城で4年ほど暮らし、財部町に家を建てました。

財部では主婦をしながら焼き鳥やたこ焼きを売るアルバイトを始めた戸島さん。その頃、今に繋がる新たな出会いがありました。

「大川原キャンプ場の近くで、そうめん流しをするお店をしていたスーフィーさんのお母さんの徳石さんと知り合って、ウチで働かない？って誘われちゃいました」

そうして働き出すと夏はたくさん親子連れで大忙し。でもお客さんと話せるのが楽しくて楽しくて、忙しさを忘れるくらいでした。

お店は夏の人気スポットになっていましたが、周囲の木が倒れて

くる恐れがあり、閉めることに。そんな時、冬の間のみ営業していた徳石さんのもう一つのお店「光鶴家」を経営しない？と再び声をかけてもらいました。

お店の屋号を変えていいよと言われましたが、「光鶴家」は徳石さんのお父さん・お母さんの名前の一字ずつとった大切な名前前で、地域の方々に愛されているお店だったのでそのままスタートしたそう。

ひとりでお店を切り盛りする戸島さん。お昼時にはお腹を空かせた作業員の方や地域の方々が訪れます。

「私が調理や配膳を慌ただしくしていると、お客さんがほかのお客さんにお茶を出してくれて、注文はおぼちゃんにとってよくと。その言葉に店内は大笑い。来てくれるお客さんに支えられてここまでやって来れましたね」

お客さんとの距離が近く、和気あいあいとした空気感、戸島さんの人柄がお店の雰囲気につながっているのだと思いました。

# 実は隣のスゴイ人



## ▶インタビューを終えて

ボリューム満点のランチと戸島さんの笑顔でお腹も心も満たされる、そんな空間でした。次回は人気メニューのカレーをいただきます。と思います。(柵)



## 光鶴家

曾於市財部町下財部6478番地  
☎ 080-5283-4179



## 協力隊の今日この頃

明けましておめでとうござい  
ます。まだまだお正月気分の柵  
です。というわけもなく、ちょ  
うど地域おこし協力隊としての  
任期の折り返し地点を過ぎ、気  
持ちを新たに進んでまいりたい  
と思います。去年よりトマトの  
ソバージュ栽培のお話ばかりし  
ていましたが、もちろん今年も  
トマトです(笑)。トマトの栽  
培だけでなく加工にも興味があ  
り、実は農家さんや鹿児島よろ  
ず支援拠点の専門家とトマトの  
可能性について、ひそかにミー  
ティングをしてみました。色々  
な視点からの意見やアイデアが  
あり新鮮で、面白い！を共有で  
きたのが嬉しく思いました。そ  
の一方で加工や商品化につい  
て、まだまだ知らないことが多  
く、色々な方々にアドバイスを  
もらいながら、勉強していきたく  
いと感じたところです。また、  
去年はあまり出来なかった子供  
たちの農業体験など、これから  
の農業にも繋がる活動をしてい  
きたいと思っておりますので今年もよ  
ろしくお願いいたします。(柵)

